

<外国語科>

指導事例一覧

番号	科目名	言語活動の特色	単元名	分類	活動
1	コミュニケーション英語Ⅰ	事物に関する紹介を聞いて概要を捉えるとともに、聞いた内容を応用して話すことに結び付ける事例	Lesson 10 Student Life in Sweden	(1)ア(i) (ii) (2)ア	①②
2	コミュニケーション英語Ⅰ	説明文を読んで概要や要点を的確に理解するとともに、音読したり感想や自分の考えを書いて発表したりする事例	Lesson 6 The Trip That Changed My Life	(1)ア(i) (1)イ(ii) (2)イ	②⑥
3	コミュニケーション英語Ⅰ	教科書で読んだ内容やリサーチをして得た情報を活用して、グループでプレゼンテーションを行う事例	Lesson 3 Abu Simbel –Rebirth on the Nile–	(1)ア(i) (ii) (1)イ(i)	②④
4	コミュニケーション英語Ⅰ	学習した語句や表現を利用して、題材内容を発展させた話題についてグループ内で役割を分担して話し合う事例	Lesson 2 Letters to America	(1)ア(ii) (1)イ(ii) (2)イ	①⑥
5	コミュニケーション英語Ⅰ	教科書で読んだ内容やリサーチをして得た情報に基づいて、問題解決のためのグループ・ディスカッションを行う事例	Lesson 7 Child Labor	(1)ア(i) (ii) (1)イ(ii)	②⑥
6	コミュニケーション英語Ⅰ	物語を読んで登場人物の気持ちや実際の発話を考え、スキットに書き表してグループで発表する事例	Lesson 4 Quill, the Guide Dog	(1)ア(i) (1)イ(i) (2)イ	③⑥
7	コミュニケーション英語Ⅰ	教科書で学習した内容に自分で調べて得た情報を加え、事物の特徴や利点を話したり書いたりして説明する事例	Lesson 3 What Is the Greatest Invention?	(1)ア(i) (ii) (1)イ(i)	②④
8	コミュニケーション英語Ⅰ	読んだ内容に基づいて、自分の考えを英文の段落構造を意識しながら論理的に書いて表現する事例	Lesson 5 Mother Goes to Space	(1)ア(i) (ii) (1)イ(ii)	④⑥

「分類」「活動」の見方は、59ページを参照

※ 分類・・・言語の役割を踏まえ言語活動を分類したもの

※ 活動・・・思考力・判断力・表現力等を育むための学習活動

外国語

外国語－1(コミュニケーション英語Ⅰ) 事物に関する紹介を聞いて概要を捉えるとともに、聞いた内容【学習活動の概要】を応用して話すことに結び付ける事例

1 単元名 Lesson 10 Student Life in Sweden			
2 単元の目標			
<ul style="list-style-type: none"> 理解できないところがあっても、既知の表現や文脈から推測するなどして聞き続ける。 自分の学校の行事について、キーワードを記したメモを使って口頭で説明する。 事物に関して紹介している対話を聞いて、事実と意見を区別しながら概要を理解する。 比較表現及び現在完了を用いた基本的な英文の意味や構造を理解する。 			
3 単元の評価規準			
コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
理解できないところがあっても、既知の表現や文脈から推測するなどして聞き続けている。	自分の学校の行事について、キーワードを記したメモを使って口頭で説明することができている。	事物に関して紹介している対話を聞いて、事実と意見を区別しながら概要を理解することができている。	比較表現及び現在完了を用いた基本的な英文の意味や構造を理解している。
4 単元の概要と言語活動			
<p>本単元は、スウェーデンの高校生が日本の高校生に、校外行事や校外行事で訪れるアイスホテルについて説明している対話文である。本単元を使って、背景知識の少ない事柄を紹介した英文を聞いて概要を理解する力を養うとともに、事物の特徴を口頭で分かりやすく説明する言語活動を行う。</p>			
5 単元の指導計画(全6時間)			
	学 習 活 動	言語活動に関する指導上の留意点	
第1次 (4)	<ul style="list-style-type: none"> 教科書に出ている写真や本文のキーワードを利用して、聞く内容を推測する。 ワークシートに示された質問を読んで、聞き取るべきポイントを事前に確認する。 スウェーデンにある高校の校外行事や、校外行事で訪れるアイスホテルに関する対話を聞く。 聞き取りづらい部分の音声的特徴を理解する。 本文と類似した事物を紹介する英文を聞いて、概要を理解する練習をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒とのインタラクションを通して、聞く内容に興味をもたせる。 リスニング用のワークシートを用意し、必要な情報だけを聞き取ればよい活動(scanning)であることを理解させる。 〈話題・概要把握 → 必要な情報の理解 → 聞き取った情報の確認〉という流れで、3回聞かせる。 対話文のスクリプトを利用し、音の連結や脱落について理解させる。 事物を紹介することを目的とした英文のスタイルに慣れさせる。 	
第2次 (2)	<ul style="list-style-type: none"> 各グループで自分たちが紹介する学校行事を決め、発表内容をメモ書きする。 グループごとに学校行事を紹介する。 	<ul style="list-style-type: none"> 書いた英文を読み上げるだけの活動にならないように、キーワードのみをメモし、それに基づいて話させる。 	

【解説】

【指導事例と学習指導要領の関連】

本指導事例における主な学習活動と学習指導要領の関連は、次のとおりである。

- 外国の高校の校外行事などに関する紹介を聞いたり、自分の学校の行事を紹介したりする。

イ 外国や我が国の生活や文化についての理解を深めるとともに、言語や文化に対する関心を高め、これらを尊重する態度を育てるのに役立つこと。 (「外国語」第4款2(1))

- 事物に関して紹介している対話を聞いて、概要や必要な情報を理解する。

ア 事物に関する紹介や対話などを聞いて、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりする。 (「コミュニケーション英語 I」2(1))

【言語活動の充実の工夫】

本指導事例は「聞くこと」を中心とした言語活動であるが、活動全体を通して、教師と生徒及び生徒同士のインタラクションによって理解が深まるようにするとともに、聞いた内容を応用して話すことに結び付ける活動まで発展させることで、生徒に聞く活動の意義を意識させた。

扱う題材は、外国の高校における行事などに関するもので、生徒の背景知識が少ない内容である。したがって、生徒の状況に応じたきめ細かな指導が必要となる。本事例では、次の点に留意した。

(リスニング用ワークシートの一部)

Topic _____
• When: _____
• Who: _____
• What students do: _____
• What the speaker thinks about the event: _____

(Key words only!)



(Key words only!)

〔Before Listening〕 (題材内容に対する興味・関心をもたせ、聞こうとする意欲の向上を図る)

- スウェーデンについて思い付くことを生徒がグループになって自由にブレインストーミングし、聞く題材について興味をもたせる。
- 教科書に出ている写真の内容について説明したり、概要を把握するために必要となるキーワードを提示したりして、これから聞く内容をある程度推測させる。
- 聞き取るべきポイントを絞り込み、ワークシート上に簡潔に示しておく。

〔While Listening〕 (マクロからミクロへの段階的なリスニングを通して聞き取る力を育成する)

- 1st Listen : 対話文の話題・概要を把握する。その際、紹介されている行事や建物等の写真を提示して聞き取る内容をできるだけ可視化することで、生徒のリスニングの負担を軽減する。
- 2nd Listen : ワークシート上のポイントに注意し、メモを取りながら細部情報を聞き取る。その際、事実 (行事の内容) と意見 (行事に対する話者の考え) を区別して聞くように注意を促す。
- 3rd Listen : 2nd Listen で聞き取った情報を確認しながら、再度聞く。また、必要に応じて教師が途中で音声を止め、聞き取りづらい部分の音声の特徴を説明したり、聞いた内容を別のより易しい表現で言い換えたりして、生徒の理解を手助けする。

〔After Listening〕 (聞いて得た情報・考えや学習した表現などを、話す力の向上に結び付ける)

- 対話文の SCRIPT を提示し、事物を紹介する際によく用いられる表現について学習する。
- 聞き取った題材を参考に、自分の学校の行事について紹介する活動を行う。その際、上記のリスニング用ワークシートと同じものを用意し、紹介する行事についてメモを作成した後、そのメモを見ながら発表できるように練習する。(国際交流を行っている学校にあっては、実際の交流場面において、学校紹介の一部として行うことも可能である。)

外国語－2(コミュニケーション英語Ⅰ) 説明文を読んで概要や要点を的確に理解するとともに、音読した【学習活動の概要】り感想や自分の考えを書いて発表したりする事例

1 単元名 Lesson 6 The Trip That Changed My Life			
2 単元の目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・ペアやグループで、音読したり感想や自分の考えを述べ合ったりする活動に積極的に取り組む。 ・感情を込めて音読するとともに、読んだ内容に対する感想や考えを口頭で表現する。 ・まとまった量の説明文を聞いたり読んだりして、概要や要点を的確に理解する。 ・S+V+現在分詞、分詞構文及び It is ～ that …の強調構文の意味や用法を理解する。 			
3 単元の評価規準			
コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
ペアやグループで、音読したり感想や自分の考えを述べ合ったりする活動に積極的に取り組んでいる。	感情を込めて音読するとともに、読んだ内容に対する感想や考えを口頭で表現することができる。	まとまった量の説明文を聞いたり読んだりして、概要や要点を的確に理解することができる。	S+V+現在分詞、分詞構文及び It is ～ that …の強調構文の意味や用法を理解している。
4 単元の概要と言語活動			
<p>本単元は、写真家の星野道夫氏の自伝である。筆者の力強い生き方や異文化との関わり方を知り、生徒が自分の生き方に結び付けることのできる教材である。筆者の思いが伝わるように気持ちを込めて音読するとともに、筆者の行動や生き方について考えを伝え合うことにより、英語で表現する力を養う。</p>			
5 単元の指導計画(全8時間)			
	学 習 活 動	言語活動に関する指導上の留意点	
第1次 (1)	<ul style="list-style-type: none"> ・教師のオーラル・イントロダクションを聞いて、筆者についての情報を得る。 ・教科書を閉じて単元全体を聞き、出来事を時間に沿って並べ替える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元の内容に興味をもたせるようなオーラル・イントロダクションを行う。 ・教科書に書かれている主な事実を大まかに把握できるようにする。 	
第2次 (5)	<ul style="list-style-type: none"> ・各パートの内容に関する質問に答え、細部の情報を正確に把握する。 ・S+V+現在分詞、分詞構文及び It is ～ that …の強調構文の用法を理解する。 ・筆者の気持ちが聞き手に伝わるように音読する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートを利用し、読み取るべきポイントを明示する。 ・ターゲットの文法事項を含んだ対話文を利用して定着を図る。 ・話す速度やイントネーションの変化が聞き手にもたらす効果を指導する。 	
第3次 (2)	<ul style="list-style-type: none"> ・筆者の行動や生き方に対する感想及び今後の自分の生き方について考えたことを書いてまとめる。 ・書いたものをペアになって発表練習し、次に、グループ内で発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・英文を書くためのフォーマットを与えて負担を軽減するとともに、学習した表現などを効果的に使うように促す。 ・聞き手の理解を確かめながら話すように指導する。 	

【解説】

【指導事例と学習指導要領の関連】

本指導事例における主な学習活動と学習指導要領の関連は、次のとおりである。

- 説明文を読んで内容を理解するとともに、筆者の気持ちが聞き手に伝わるように音読する。

イ 説明や物語などを読んで、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりする。また、聞き手に伝わるように音読する。 (「コミュニケーション英語Ⅰ」2(1))

- 筆者の行動や生き方に対する感想及び今後の自分の生き方について書いたり発表したりする。

ウ 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、話し合ったり意見の交換をしたりする。 (「コミュニケーション英語Ⅰ」2(1))

【言語活動の充実の工夫】

本指導事例は「読むこと」を中心とした言語活動であるが、読み取った内容に対する感想や自分の考えを書いたり発表したりする活動までつなげていくことをねらいとし、次の手順で指導した。

- ① 本文の内容理解 (概要から細部情報へ)
- ② 言語材料 (新出の文法事項など) の理解
- ③ 本文の音読
- ④ 本文に対する感想や自分の考えの作成・発表

(リーディング用ワークシートの一部)

When: _____

→ What Mr. Hoshino did: _____



Why he did so:

His feelings:

上記の各活動を展開するに当たり、以下の点に配慮した。

〔①について〕 (日本語を介さずに、英語を通して英語を理解させるための工夫)

- ・全体として何について書かれているかを意識しながら細部の情報を把握するように注意させる。そのため、パートごとの内容を一文でまとめるなどの活動を含める。
- ・ワークシートを利用して、読み取るべきポイントを明示する。ただし、本文をそのまま抜き出すのではなく、平易な表現で置き換えながらまとめることが必要となるように工夫する。
- ・未知語については、内容を理解するために「あらかじめ調べておく必要がある語」と「意味を推測しながら読み進めるべき語」に分類し、どの活動時に指導するかを明確にしておく。

〔②について〕 (実際のコミュニケーションの場面と結び付けた文法事項の指導)

- ・本単元で習得すべき文法事項を取り入れた **small chat** を毎時間ペアで練習し、自然に会話の中で当該文法事項を身に付けることができるようにする。

〔③について〕 (目的に応じた様々なタイプの音読活動と自己・相互評価の導入)

- ・CDの音声を利用し、個々の単語の発音やアクセントだけでなく、内容や筆者の感情に応じたリズムやイントネーションの変化などに注目させる。
- ・生徒が飽きないように、個人、ペア、グループ、全体など、様々な方法で音読をさせる。
- ・発音、声の大きさ、流暢さ、気持ちの込め方などについて、カード形式で自己評価したり、生徒同士で相互評価を行ったりすることにより、音読する力を高めていく。

〔④について〕 (教科書本文を取り込みながら各自の発信力を高めていくための指導)

- ・筆者の行動や生き方に対する感想及び今後の自分の生き方について考えたことを、〈本文中の該当部分の要約 → 感想 → 自分自身の考え〉の流れに沿って書いてまとめる。
- ・ペアやグループでの発表時は、話す際に原稿から目を離す“Read and Look Up”を徹底させ、聞き手が理解しやすいように話すことに注意させる。

外国語－3(コミュニケーション英語Ⅰ) 教科書で読んだ内容やリサーチをして得た情報を活用して、
【学習活動の概要】 グループでプレゼンテーションを行う事例

1 単元名 Lesson 3 Abu Simbel —Rebirth on the Nile—			
2 単元の目標			
<ul style="list-style-type: none"> 教科書で読んだ内容やリサーチをして得た情報を活用して、グループの中で積極的に話す。 声の大きさや話す速度に注意しながら、調べたことを聞き手に分かりやすく伝える。 説明文を読んで、事実と意見などを区別しながら内容を的確に理解する。 聞き手に分かりやすく伝えるために必要な表現方法についての知識を身に付ける。 			
3 単元の評価規準			
コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
教科書で読んだ内容やリサーチをして得た情報を活用して、グループの中で積極的に話している。	声の大きさや話す速度に注意しながら、調べたことを聞き手に分かりやすく伝えることができている。	説明文を読んで、事実と意見などを区別しながら内容を的確に理解することができている。	聞き手に分かりやすく伝えるために必要な表現方法についての知識を身に付けている。
4 単元の概要と言語活動			
本単元は、ナイル川流域の歴史的建造物の保全とダム建設について、ある高校生がインターネットで調べた世界遺産の説明として書かれている。本文を参考にして、自分たちが興味のある世界遺産について調べ、学習した表現を利用しながら分かりやすくプレゼンテーションを行う力を養う。			
5 単元の指導計画(全8時間)			
	学 習 活 動	言語活動に関する指導上の留意点	
第1次 (4)	<ul style="list-style-type: none"> 本単元の導入として、将来訪問してみたい世界遺産を考え、ペアで伝え合う。 本文をパートごとに読み、事実の紹介なのか筆者の意見なのかを区別しながら理解する。 関係代名詞を用いた後置修飾の方法や、S+be+C(=that節)で主語を説明する用法を身に付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 世界遺産の分類等について、必要に応じて背景知識を与える。 筆者の意見をマーカーで色分けをして整理させるとともに、事実の紹介との違いが伝わるように音読練習も行う。 ピクチャーカードを用意し、ターゲットとなる表現を利用しながら絵の内容を説明する練習を行わせる。 	
第2次 (3)	<ul style="list-style-type: none"> 3人1組で世界遺産リストから自分たちが興味のあるものを選び、調査する。 調べた内容を聞き手に分かりやすく伝えるためにポスター(次頁参照)を作成し、それを利用して発表練習する。 グループ内で協力して最終確認を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ウェブ上で確認できる世界遺産のリストを生徒に紹介し、選択幅を広げる。 PC室等を利用して効果的に調べられるよう配慮するとともに、授業外でも自発的に調べることを推奨する。 声量、速度、明瞭さなどを確認させる。 	
第3次 (1)	<ul style="list-style-type: none"> 作成したポスターを利用して、グループごとにプレゼンテーションを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 話し手が発表しやすい雰囲気を作るよう、聞き手側にも協力させる。 	

【解説】

【指導事例と学習指導要領の関連】

本指導事例における主な学習活動と学習指導要領の関連は、次のとおりである。

- 説明文を読んで、事実と意見などを区別しながら内容を理解するとともに、適切に音読する。

イ 説明や物語などを読んで、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりする。
また、聞き手に伝わるように音読する。 (「コミュニケーション英語 I」 2(1))



- 教科書で読んだ内容やリサーチをして得た情報を活用し、事実や意見を分かりやすく発表する。

ウ 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、話し合ったり意見の交換をしたりする。 (「コミュニケーション英語 I」 2(1))

【言語活動の充実の工夫】

本指導事例では、「読むこと」から「話すこと」へと発展させ、最終的に読んだり調べたりしたことに基づいてプレゼンテーションを行うことを目標としているため、次の手順で指導した。

- ① [Lead-in] 扱う話題・内容に生徒を引き込む。
- ② [Read for Gist] 本単元の概要把握を行う。
- ③ [Read for Specific Information] 事実と意見を区別しながら、細部の情報を理解する。また、その理解を効果的な音読につなげる。
- ④ [Focus on Language] プレゼンテーションにおいて利用できる表現を導入し、実際に使うことができるように練習する。
- ⑤ [Follow-up Activity : Presentation]

World Heritage Site	
Name: Abu Simbel Type: Cultural Property	
(a) Picture 	(b) Location  (map/picture) Country: Egypt
(c) What we should know: <ul style="list-style-type: none"> <input type="radio"/> built by Ramses II in 1250 B.C. <input type="radio"/> some problems → hard to solve <input type="radio"/> saved with the help of more than 50 countries 	(d) Our Opinions: (key words only) <ul style="list-style-type: none"> <input type="radio"/> magnificent <input type="radio"/> financial difficulties (What a shame!) <input type="radio"/> importance of international cooperation
▲ポスターの作成例	

- (1) 自分たちが興味のある世界遺産を1つ選び、協力してインターネット等で調べさせる。発表に含める要素は、(a) 自分たちの選んだ世界遺産の写真又は絵、(b) 場所、(c) その世界遺産について知っておくべきこと、(d) 選んだ世界遺産に関する自分たちの意見や考えの4項目とする。
- (2) 発表時の視覚情報として、上記のようなポスターを作成させる。(a)及び(b)についてはグループの3人が適宜分担をして発表し、(c)及び(d)については各生徒が1項目ずつ発表する。なお、(c)と(d)はキーワードやキーフレーズのみ書き込みとし、発表時にはそれらを用いて文章化して話すようにする。教師は各グループの準備活動をサポートし、適宜、英語表現等に関する助言を行う。
- (3) グループでの練習中は、音声面、内容面及び視覚情報が適切かどうかを互いに点検させる。
- (4) クラス全体に対してプレゼンテーションをさせる。プレゼンテーションはDVDに録画し、後日、各発表について全員で振り返る時間を設ける。

特に、上記⑤の活動（今回は音声面と内容面に焦点化）について、次のことに配慮した。

【音声面】適切な声の大きさや速度で話すとともに、英語の音声的な特徴（個々の単語の発音、リズム、イントネーションなど）を踏まえてプレゼンテーションをすることができるよう、別の文章を用いた音読練習や意見や考えを強調して述べる練習を取り入れる。

【内容面】調べて得た情報をそのまま書いたり話したりするのではなく、聞き手が理解しやすいように、より易しい表現で言い換えたり情報の順番を入れ替えたりしながらまとめさせる。また、本単元で学習した表現や文法事項を積極的に活用するよう指導する。

外国語－4(コミュニケーション英語Ⅰ) 学習した語句や表現を利用して、題材内容を発展させた話題に
【学習活動の概要】 についてグループ内で役割を分担して話し合う事例

1 単元名 Lesson 2 Letters to America			
2 単元の目標			
<ul style="list-style-type: none"> 互いに協力しながら対話を継続させ、積極的に質問したり感想や意見を交換したりする。 学校生活に関する話題について、ペアやグループで自分の感想や意見とその理由を伝え合う。 題材内容についての賛否、簡単な感想や意見等を述べるように、批判的に読む。 感想や意見とその理由を述べたり話合いを続けたりするために必要な語句や表現を理解する。 			
3 単元の評価規準			
コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
互いに協力しながら対話を継続させ、積極的に質問したり感想や意見を交換したりしている。	学校生活に関する話題について、ペアやグループで自分の感想や意見とその理由を伝え合うことができている。	題材内容についての賛否、簡単な感想や意見等を述べるように、批判的に読むことができている。	感想や意見とその理由を述べたり話合いを続けたりするために必要な語句や表現を理解している。
4 単元の概要と言語活動			
<p>本単元は、日本に留学しているアメリカ人高校生が、本国の家族に宛てた E メールを扱っている。E メールを読んで日米の高校生活の違いについて理解するとともに、感想や意見などを述べる活動を通して話合いに必要な語句や表現を学習し、それらを活用して自分の考えを伝え合う力を養う。</p>			
5 単元の指導計画(全7時間)			
	学 習 活 動	言語活動に関する指導上の留意点	
第1次 (5)	<ul style="list-style-type: none"> 日米の高校生活でどのような違いがあるかについて予想し、ペアで話し合う。 ワークシートを活用して本文の概要を確認した後、感想やその理由を話し合う。 絵を用いながら、読み取った日米の高校生活の違いを口頭で要約する。 日米の高校生活の違いを踏まえ、海外で学校生活を送ってみたいかどうかについてペアで話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> 話し合う活動の中で、適宜、本単元の新出語句を導入する。 感想や理由を述べるために必要な表現を指導する。(例: I think... because...) グループで、聞き手の理解を確認しながら話すように注意させる。 話合いを続けるために必要な表現を指導する。(例: How about you?, What do you think about...?) 	
第2次 (2)	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートに、制服着用のメリット・デメリットをメモ形式で記入する。 「制服と私服のどちらがよいか」とその理由をグループで話し合う。 各グループで話し合った内容を、クラス全体に発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを、文ではなく、キーワードでまとめさせることに慣れさせる。 グループで協力しながら話し合っているかを観察し、必要に応じて支援する。 ホワイトボードにキーワードのみを書き、口頭発表するように指導する。 	

【解説】

【指導事例と学習指導要領の関連】

本指導事例における主な学習活動と学習指導要領の関連は、次のとおりである。

○アメリカ人から見た日本の高校生活の描写を読み、日本と米国の高校生活の違いを理解する。

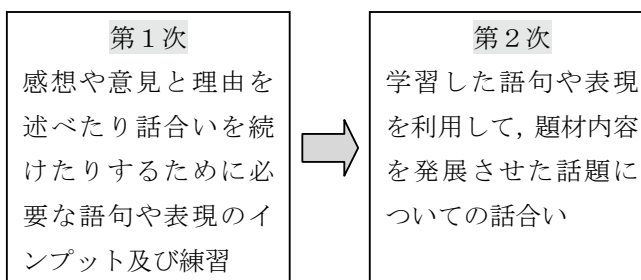
イ 外国や我が国の生活や文化についての理解を深めるとともに、言語や文化に対する関心を高め、これらを尊重する態度を育てるのに役立つこと。 (「外国語」第4款2(1))

○ 読んだ内容について感想や意見と理由を述べたり、発展的な話題について話し合ったりする。

ウ 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、話し合ったり意見の交換をしたりする。 (「コミュニケーション英語Ⅰ」2(1))

【言語活動の充実の工夫】

本指導事例では、Post-reading の活動として、グループで自分の考えや理由を伝え合うことができるようになることをねらいとしている。話し合う活動に係る右記の2つの段階のうち、特に第2次に重点を置いて、以下のように指導した。



〔話し合いの前の指導と留意点〕

- ・ワークシートに、制服を着用するメリット・デメリットや制服に対する考えを記入する。話し合いの際に書いたものを読み上げるだけにならないようにするため、キーワードのみを記入させる。

〔話し合いにおける指導と留意点〕

- ・4～5人のグループを作る。グループで話し合いが円滑に進むよう、各生徒に役割 (Leader, Questioner, Recorder, Reporter) を与える。Leader を中心として、全員に発言する機会が与えられるように指導する (結論をまとめる必要はない)。また、第1次で学習した語句や表現を役割別にカードや表にして示すなどして、生徒がそれらを実際の場面で使いやすいように配慮する。
- ・話し合い活動を行うごとに、各生徒が別の役割を担うように指導する。

Task 1: Think about the following questions. Write some **key words** (not full sentences) about your ideas and reasons.

(1) What are the advantages and disadvantages of school uniforms?

Advantages	Disadvantages
<i>convenient, save time by not choosing what to wear</i>	<i>expensive, cold in winter, difficult to wash</i>

生徒の記入例

(2) Which do you like better, school uniforms or casual clothes? Why?

Useful Expressions の例

Task 2: Talk about the questions above in your group. You will be given one of the roles below.

Roles	What to do	Useful Expressions
Leader	- leads the discussion	"How about you?" "What do you think about...?"
Questioner	- asks questions of other group members	"Why do you think so?" "What do you mean by...?"
Recorder	- writes what other people said on the board	"What did you say about...?" "How do you spell...?"
Reporter	- reports the group's ideas to class	"Some people said ..., and others said..." "That's all."

〔話し合いの後の指導と留意点〕

- ・Recorder がグループで話し合われた内容をホワイトボードに簡潔にまとめ、Reporter がそれを見ながらクラス全体に報告する。別のグループの Questioner が報告されたことに対して質問することで、聞いた内容を確認したり、さらに意見を交換したりできるようにする。
- ・話し合いや発表を基に、「制服と私服のどちらがよいか」に対する考えを書いてまとめるとともに、活動への参加状況・グループでの協力・表現の活用等について「振り返りシート」に記入する。

外国語－5(コミュニケーション英語Ⅰ) 教科書で読んだ内容やリサーチをして得た情報に基づいて、
【学習活動の概要】 問題解決のためのグループ・ディスカッションを行う事例

1 単元名 Lesson 7 Child Labor			
2 単元の目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童労働の実態と問題の社会的な背景に関心を持ち、自分の考えを積極的に伝える。 ・ 説明文の内容を口頭で要約するとともに、問題の解決策についてグループで話し合う。 ・ 説明文に関する質問に答えるとともに、問題の解決策についてリサーチをして情報を得る。 ・ 関係代名詞の what 及び関係代名詞の非制限用法を用いた文の構造と意味を理解する。 			
3 単元の評価規準			
コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
児童労働の実態と問題の社会的な背景に関心を持ち、自分の考えを積極的に伝えようとしている。	説明文の内容を口頭で要約するとともに、問題の解決策についてグループで話し合うことができる。	説明文に関する質問に答えるとともに、問題の解決策についてリサーチをして情報を得ることができる。	関係代名詞の what 及び関係代名詞の非制限用法を用いた文の構造と意味を理解している。
4 単元の概要と言語活動			
<p>本単元は、発展途上国における児童労働の実態とその背景、問題解決に向けた国際機関の取組などについて書かれている。児童労働の事例を参考に、問題を解決するために自分たちにできることは何であるかを考え、本単元の文法事項である関係代名詞を用いながら話し合うことができる力を養う。</p>			
5 単元の指導計画(全7時間)			
	学 習 活 動	言語活動に関する指導上の留意点	
第1次 (5)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 辞書を引かずに単元全体を速読し、話題や概要を捉える。 ・ 各パートを読み直し、児童労働を取り巻く環境(経済状況等)を理解する。 ・ 各パートの児童労働の事例を、キーワードを利用しながら口頭で要約する。 ・ 教科書以外の児童労働の事例や国際機関の動きについて書かれた英文を読み、そこから得た情報を口頭で伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 未知語があっても文脈から意味を推測して読み続けるように指導する。 ・ 読み取るべき内容を提示し、必要な情報だけを拾わせるようにする。 ・ 本文のままではなく、より易しい表現を用いて要約することを意識付ける。 ・ 異なる情報が書かれた英文を複数用意し、グループ内でインフォメーション・ギャップができるようにする。 	
第2次 (2)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童労働の原因や問題解決の方策を各自で調べ、必要な情報を書き取る。 ・ 児童労働の撲滅に向けて高校生の自分たちができることについて、グループで意見を出し合う。 ・ グループ内で出された意見を整理し、発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 調べて得た情報の要点のみを簡潔にまとめることができるように指導する。 ・ 既成概念にとらわれることなく自由な発想で意見を出し合い、互いの意見を尊重し合う雰囲気をつくる。 ・ 出された意見に修正を加え、よりよいアイデアとなるように協議させる。 	

【解説】

【指導事例と学習指導要領の関連】

本指導事例における主な学習活動と学習指導要領の関連は、次のとおりである。

- 児童労働の原因等について調べ、問題解決のために自分たちは何ができるのかを考える。

ウ 広い視野から国際理解を深め、国際社会に生きる日本人としての自覚を高めるとともに、国際協調の精神を養うのに役立つこと。 (「外国語」第4款2(1))

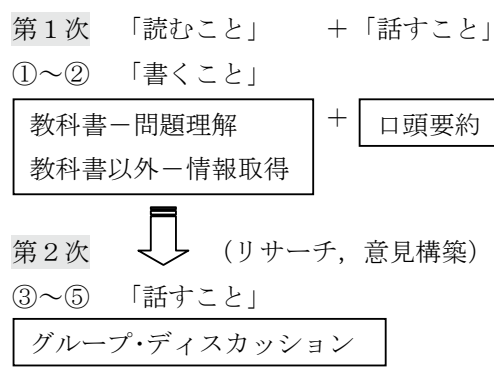
- 教科書で読んだ内容やリサーチをして得た情報に基づいて、問題解決のために意見を出し合う。

ウ 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、話し合ったり意見の交換をしたりする。 (「コミュニケーション英語Ⅰ」2(1))

【言語活動の充実の工夫】

「読むこと」と「書くこと」及び「話すこと」を有機的に結び付け、得た情報に基づいて意見交換をすることができるよう、次の手順を踏んでいる。

- ① 教科書を読んで、内容を口頭要約する。
- ② 同じ話題を扱った教科書以外の英文を読み、その情報を持っていない相手に内容を伝える。
- ③ 各自でリサーチをして、幅広く情報を得る。
- ④ ①～③を参考にして、問題の解決策を考える。
- ⑤ グループで意見を出し合い、各意見を評価した上で、グループとしての意見をまとめて発表する。
上記の各活動について、主に次の点に配慮した。



〔①について〕 (読み取った内容について、聞き手に何を伝えるべきかを考えさせる)

- ・教科書の内容について、聞き手が理解しやすいように要点を整理して口頭で伝える練習をする。

〔②について〕 (教科書以外の教材を複数用い、生徒間にインフォメーション・ギャップをおこす)

- ・教科書で学んだ表現や知識を活かして読むことができる英文を4種類 (ILO のウェブサイトより児童労働の事例を2つ、児童労働撲滅国際計画の具体的内容を2つ) 用意し、4人グループの中でインフォメーション・ギャップができるようにする。
- ・情報をもっていない聞き手が理解できるように、教師から指定された難易度の高い語句を平易な表現を用いて言い換えたり、情報の順番を入れ替えたりするなどの工夫をさせる。

〔③について〕 (リサーチする前に、その方向性を生徒同士で考えさせる)

- ・児童労働の問題の解決策を考えるに当たり、上記①や②で学習したことの他にどのような情報が必要であるかについて互いに意見を出し合ってから、各自でリサーチに入る。

〔④について〕 (各自が主体的に問題を解決しようとする姿勢をもたせる)

- ・①～③で得た情報や学習した表現などを積極的に利用し、各自の意見をまとめるようにする。

〔⑤について〕 (話し合うために必要な表現を学習しながら意見をまとめるプロセスを体験させる)

- ・児童労働の問題の解決策について自分の意見を述べる際、本単元で扱われている文法事項である関係代名詞の what を、“What we need to do is ~.” や “What we could do to solve this problem is ~.” などの形で、実際のコミュニケーションの場面で使うことができるようにする。
- ・生徒同士のコミュニケーションが円滑に進められるよう、相手の発言を促したり、聞き直したり、話題を発展させたりする際に必要な表現を段階的に指導し、教師も生徒とのコミュニケーションにおいて積極的にそれらの表現を使用することでモデル提示をする。

外国語－6(コミュニケーション英語Ⅰ) 物語を読んで登場人物の気持ちや実際の発話を考え、スキット
【学習活動の概要】 に書き表してグループで発表する事例

1 単元名 Lesson 4 Quill, the Guide Dog			
2 単元の目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・ペアでの質疑応答やグループでの発表活動に積極的に取り組む。 ・物語の場面ごとに、登場人物の気持ちや実際の発話を考えて書き表し、発表する。 ・物語の場面ごとに、登場人物に起こった出来事を的確に読み取る。 ・S+V+O+to do, S+V+O (=疑問詞+to do, that S'+V') の文構造と意味を理解する。 			
3 単元の評価規準			
コミュニケーション への関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての 知識・理解
ペアでの質疑応答 やグループでの発表 活動に積極的に取り 組んでいる。	物語の場面ごとに、 登場人物の気持ちや 実際の発話を考えて 書き表し、発表するこ とができている。	物語の場面ごとに、 登場人物に起こった 出来事を的確に読み 取ることができてい る。	S+V+O+to do, S +V+O (=疑問詞+to do, that S'+V') の文構 造と意味を理解して いる。
4 単元の概要と言語活動			
<p>本単元は物語で、盲導犬クイールと主人である渡辺さんとの出会いから別れが話の中心である。第三者の目で語られているため、実際の発話はほとんど書かれていない。そこで、読み取った内容をヒントに各場面における登場人物の気持ちや発話を考え、それらを書いて表現する力を養う。</p>			
5 単元の指導計画(全8時間)			
	学 習 活 動	言語活動に関する指導上の留意点	
第1次 (5)	<ul style="list-style-type: none"> ・新出の語や熟語の意味・用法を理解し、発音練習をする。 ・S+V+O+to do, S+V+O (=疑問詞+to do, that S'+V') の文構造と意味を理解し、実際に使えるようにする。 ・場面ごとに、各登場人物に起こった出来事を表にまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・意味の確認は、より平易な表現で言い換えるなど、英語を使って行う。 ・ターゲットを含む文を書いたり、実際のコミュニケーションの場面で話したりすることで習熟させる。 ・メモ形式で書き込むことができるワークシートを用意する。 	
第2次 (2)	<ul style="list-style-type: none"> ・場面ごとに、出来事と登場人物の気持ちについてペアで質疑応答を行う。 ・グループごとに、登場人物の気持ちや発話を考えてスキットを作成する。 ・作成したスキットを、他のグループと交換して読み合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・必ずしも1つだけの「正解」が存在する活動ではないことを理解させる。 ・ワークシートに具体例を示し、活動の流れが見えやすいようにする。 ・理解しづらい部分がないかどうかを生徒同士で確認させる。 	
第3次 (1)	<ul style="list-style-type: none"> ・各登場人物の気持ちが聞き手に伝わるように、スキットの練習をする。 ・グループごとにスキットを発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・話す速度やイントネーションなどの変化がもたらす効果について説明する。 ・聞き手に評価シートを書かせる。 	

【解説】

【指導事例と学習指導要領の関連】

本指導事例における主な学習活動と学習指導要領の関連は、次のとおりである。

- 物語の場面ごとに、出来事と登場人物の気持ちについてペアで質疑応答を行う。

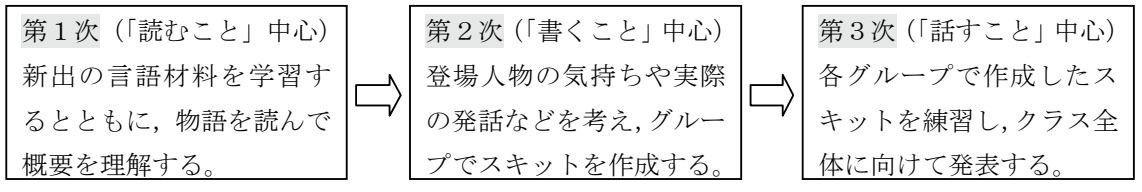
ウ 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、話し合ったり意見の交換をしたりする。 (「コミュニケーション英語 I」2(1))

- 物語の登場人物の気持ちや実際の発話を考えて、グループでスキットを作成する。

エ 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、簡潔に書く。 (「コミュニケーション英語 I」2(1))

【言語活動の充実の工夫】

教材中に登場人物の実際の会話がほとんど書かれていないことを利用し、各場面ではどのような対話が行われていたかを想像してスキットを作成し、発表させることを目標としている。



上記の3つの段階のうち、本指導事例では第2次の指導に重点を置き、以下の点に留意した。

〔第2次の指導内容と留意点〕

- ① 本文の内容及び登場人物の気持ちに関する質疑応答について (内容理解+自分自身の考え) スキット・ライティングに向けたステップとして位置付けた活動である。場面ごとに質問を与え、ペアで質疑応答を行う。単なる内容理解ではなく、想像力を膨らませながら登場人物の気持ちなどを考えるようにするため、次の例のように3種類の質問を用意した。

〈教科書から読み取れる内容〉	〈ロールプレイで考える内容〉	〈自分自身の考え〉
Was Quill important for Mr. Watanabe? How can you say so?	You are Mr. Watanabe. Why did you come to like Quill?	Do you think that dogs can be our good friends? Why do you think so?

- ② スキットの作成について (スムーズに活動を行うようにするためのフォーマットの提示) 4人のグループになって好きな場面を1つ選び、登場人物の発話を想像してスキットを作る活動である。ワークシートには、以下のように、対話の一部を例示するとともに、作成時に注意すべき点分かるようにする。

(ワークシート例)

教科書から1つの場面を選択する。

グループ全員が1人1役を担当する。

Scene	<i>Quill and Mr. Watanabe walked together again.</i>
Characters	<i>Mr. Watanabe, Quill, a nurse and a narrator</i>
Dialogue	<i>W: Quill, I wanted to see you! Thank you for waiting for me for three years.</i> (N: Mr. Watanabe burst out into tears.)
	<i>Q: Me, too! I'm so happy to see you again.</i>
	<i>W: Let's walk together, Quill.</i>
	<i>Q: Why not?</i> (N: <u>Quill remembered that Mr. Watanabe liked to take a walk with him.</u>)

ナレーションも例示する。

Quillも言葉を話すことができるものとする。

- ・本単元に出てきた語彙や表現を多用するなど、聞き手に内容が伝わるように工夫する。
- ・本単元で学習した文法事項を活用する (例: 下線部の S+V+O (=that S'+V'))。

外国語一七(コミュニケーション英語 I) 教科書で学習した内容に自分で調べて得た情報を加え, 事物
【学習活動の概要】 の特徴や利点を話したり書いたりして説明する事例

1 単元名 Lesson 3 What Is the Greatest Invention?			
2 単元の目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・ペア・ワークやグループ・ワークにおいて, 得た情報や自分の考えを積極的に相手に伝える。 ・事物の特徴や利点を話したり書いたりして, 聞き手や読み手に分かりやすく説明する。 ・事物の特徴や利点を紹介する説明文を読んで, 概要や要点を的確に理解する。 ・thanks to ~及び enable ~ to ...が用いられた英文の意味や用法を理解する。 			
3 単元の評価規準			
コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
ペア・ワークやグループ・ワークにおいて, 得た情報や自分の考えを積極的に相手に伝えようとしている。	事物の特徴や利点を話したり書いたりして, 聞き手や読み手に分かりやすく説明することができる。	事物の特徴や利点を紹介する説明文を読んで, 概要や要点を的確に理解することができる。	thanks to ~及び enable ~ to ...が用いられた英文の意味や用法を理解している。
4 単元の概要と言語活動			
<p>本単元は, 「20世紀における最大の発明は何か」という調査について紹介したものである。4つの発明品 (telephone, dynamite, automobile, printing press) に関する英文を読んで概要や要点を理解するとともに, 本単元で学習する表現を利用して事物の特徴や利点を説明する能力を養う。</p>			
5 単元の指導計画(全7時間)			
	学 習 活 動	言語活動に関する指導上の留意点	
第1次 (1)	<ul style="list-style-type: none"> ・取り上げられている4つの発明品や発明家に対する背景知識を高める。 ・4つの発明品が日常生活にもたらした変化について, グループで話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・イラストや写真等を用い, 発明品や発明家に関する基本的な情報を与える。 ・話し合う際に必要となる語句や表現を適宜, 導入する。 	
第2次 (3)	<ul style="list-style-type: none"> ・thanks to ~及び enable ~ to ...の意味や用法を学習する。 ・本文を読み, 各発明品の特徴や利点, 筆者の考えなどをまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身の回りにある事物を説明した例文を示し, 使用場面を意識させる。 ・読み取ったことを簡潔にまとめるためのワークシートを与える。 	
第3次 (3)	<ul style="list-style-type: none"> ・4人グループで各自が担当する発明品を決め, その紹介を口頭で行う。 ・各グループで, 4つの発明品のうち, 最も偉大な発明は何かを話し合う。 ・グループで決めた最も偉大な発明品について各自が調べ, 更に情報を得る。 ・教科書の内容に自分が調べて得た情報を加え, 発明品を説明する英文を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本文をそのまま読むのではなく, ワークシートを利用して要約させる。 ・本単元で学習した表現を効果的に活用し, 英語で話し合うように指導する。 ・自分が得たい情報を項目立てし, 整理してから調べるようにする。 ・英文を書くフォーマットを与え, 文章の構成を意識しながら書かせる。 	

【解説】

【指導事例と学習指導要領の関連】

本指導事例における主な学習活動と学習指導要領の関連は、次のとおりである。

- 本単元で扱われている発明品の特徴や利点、筆者の考えなどをまとめ、口頭で説明する。

ウ 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、話し合ったり意見の交換をしたりする。 (「コミュニケーション英語 I」 2(1))

- 教科書の内容に自分が調べて得た情報を加え、グループで選んだ発明品を紹介する英文を書く。

エ 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、簡潔に書く。 (「コミュニケーション英語 I」 2(1))

【言語活動の充実の工夫】

本指導事例では、教科書で学習した内容をベースとして、最終的に事物を紹介する英文を書くことができるように、〔背景知識の活性化〕→〔教科書からの情報取得〕→〔+αを含めた情報発信〕という3つのステップで構成することとした。各ステップの指導においては、次の点に留意した。

〔1st Step：背景知識の活性化〕 (「聞くこと」及び「話すこと」中心)

本文を読む前の段階で、教師がオーラル・イントロダクションによって基本的な情報を与えたり、生徒が本文で扱われている4つの発明品が日常生活にもたらした変化について話し合ったりすることで内容への関心を高めるとともに、初見の英文を読解する負担を軽減する。

〔2nd Step：教科書からの情報取得〕 (「読むこと」中心)

下記のワークシートを与え、情報を効率よく整理しながら読み進めていくことができるようにする。また、ワークシートには、教科書から英文をそのまま抜き出して書くのではなく、各発明品を説明するために最低限必要となるキーワードを中心に記すよう指導する。

	telephone	dynamite	automobile	printing press
Inventor				
Advantages				
Comments				

〔3rd Step：+αを含めた情報発信〕 (「話すこと」及び「書くこと」中心)

- (1) ワークシートに書き取ったキーワードを使いながら、各発明品について学習した内容を口頭で説明する。ここでは教科書から得た情報をグループで確認し、(2)の活動へつなげることを目的とする。
- (2) 各グループで選んだ最も偉大な発明品を紹介・説明するための英文を書く活動である。各自で調べた読み手を持っていない情報を含めることで、読み手に伝えるという目的を明確にする。英文を書く際は、教科書や他の資料に書かれている英文を平易な表現に置き換えるとともに、情報を取捨選択したり情報の順番を変えたりするなどして、読み手に分かりやすく伝えるように工夫する。
- (3) (2)で書いた英文を生徒同士で交換して読み、意味が曖昧な表現や文法の誤りなどを指摘し合い、それに基づいて書き直すようにする。

(ライティングのフォーマット)

- ① The item you chose & the inventor: _____
- ② Advantages (← from the text): _____
- ③ Further information (← from other sources): _____

外国語－8(コミュニケーション英語Ⅰ) 読んだ内容に基づいて、自分の考えを英文の段落構造を意識しながら論理的に書いて表現する事例

1 単元名 Lesson 5 Mother Goes to Space			
2 単元の目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・読み手が理解しやすいように英文を書いたり、指摘された点を参考にして書き直したりする。 ・つながりを示す語句や段落の構造などに注意しながら、論理の展開が明確な文章を書く。 ・登場人物の言動や行動を文章に即して捉えることを通じ、概要や要点を的確に理解する。 ・It+be ～+for …+to 不定詞, S hope that S' will do...の文構造と意味を理解する。 			
3 単元の評価規準			
コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
読み手が理解しやすいように英文を書いたり、指摘された点を参考にして書き直したりしている。	つながりを示す語句や段落の構造などに注意しながら、論理の展開が明確な文章を書くことができる。	登場人物の言動や行動を文章に即して捉えることを通じ、概要や要点を的確に理解することができる。	It+be ～+for …+to 不定詞, S hope that S' will do...の文構造と意味を理解している。
4 単元の概要と言語活動			
<p>本単元は、宇宙飛行士の山崎直子さんが宇宙へ行くまでの困難と国際宇宙ステーション (ISS) で行った実験について書かれている。彼女の言動や実験の内容、結果などを的確に読み取った上で、自分がISSで実験したいことについて書く活動を通して、論理的に書いて表現する力を養う。</p>			
5 単元の指導計画(全7時間)			
	学 習 活 動	言語活動に関する指導上の留意点	
第1次 (2)	<ul style="list-style-type: none"> ・ケネディ宇宙センターの場所や機能について説明している英文を聞く。 ・コロンビア号やISSの写真を見て、感じたことをペアで自由に話し合う。 ・It+be ～+for …+to 不定詞, S hope that S' will do...の文構造と意味を理解し、実際に使えるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地図、写真、音声情報などにより、教材内容に対する生徒の期待感を高める。 ・互いに協力しながら、質問したり意見を交換したりするように指導する。 ・イラストの内容を描写させる活動を通してターゲットとなる文構造を習熟させる。 	
第2次 (4)	<ul style="list-style-type: none"> ・場面ごとに出来事を表にまとめ、各場面の筆者の気持ちをペアで話し合う。 ・段落の構造に注意しながら本文を読み、ISSでの実験の内容と結果をまとめる。 ・指定されたキーワードを使いながら、本文の要約を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートを利用して、読み取るべきポイントを提示する。 ・事実と意見を区別しながら読むことで、英文の構成上の特徴を理解させる。 ・学習した語彙、つながりを示す語句、文法事項を積極的に活用させる。 	
第3次 (1)	<ul style="list-style-type: none"> ・「ISSでの実験してみたいこと」について自分の考えを書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・トピック・センテンスとサポート・センテンスの働きについて指導する。 	

【解説】

【指導事例と学習指導要領の関連】

本指導事例における主な学習活動と学習指導要領の関連は、次のとおりである。

- 登場人物の言動や行動などを文章に即して捉えることを通じ、概要や要点を的確に理解する。

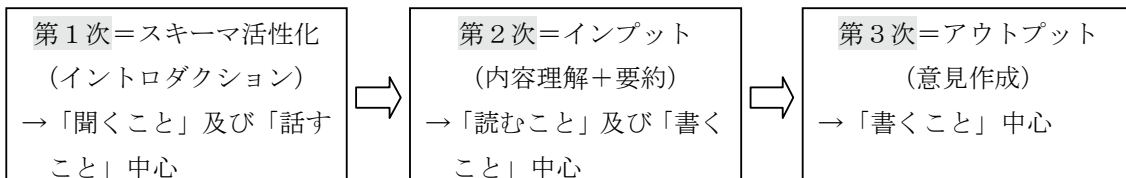
イ 説明や物語などを読んで、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりする。
また、聞き手に伝わるよう音読する。 (「コミュニケーション英語Ⅰ」2(1))

- つながりを示す語句や段落の構造などに注意しながら、論理の展開が明確な文章を書く。

エ 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、簡潔に書く。 (「コミュニケーション英語Ⅰ」2(1))

【言語活動の充実の工夫】

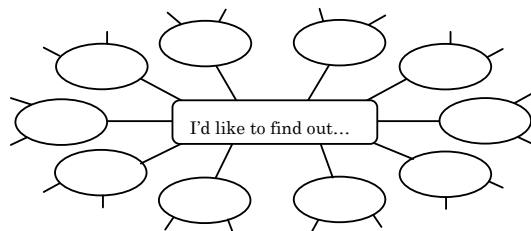
本指導事例では、「読むこと」と「書くこと」を有機的に結び付け、読んだ内容に関連した話題について自分の考えを書いて表現することをねらいとしている。英文を書く際は常に読み手を意識し、つながりを示す語句を適切に用いたり、自分の考えを明示した上でその理由や具体例を述べるなど構成上の工夫をしたりすることで、論理的に表現する力を養うことを目標とする。



上記の3つの段階のうち、本指導事例では第3次の指導に重点を置き、以下の点に留意した。

【第3次の指導内容と留意点】

- ① 〈書こうとする内容を明確にする〉右記のようなマインド・マップなどを用い、書こうとする内容についてアイデアを思いつくままにメモし、その上でどのアイデアを中心に書くかを決定する。
- ② 〈アウトラインを作る〉トピック・センテンス→サポート・センテンス→結論の流れで考える。
- ③ 〈段落の形にして書く〉つながりを示す語句等が書かれたカードを渡し、どの表現をどこで用いるのかを考え、それらを効果的に利用して論理的な構成となるように指導する。
- ④ 〈生徒同士で読み合う〉書いたものをペアやグループで交換して読み合い、②で示した論理的な構成になっているか、具体例を入れるなどしてわかりやすい内容になっているか、表現の曖昧さがないか等の観点から、読み手に伝わりにくい点を中心に指摘し合う。その際、内容を伝える上で支障があるようなグローバル・エラーについては教師が取り上げ、クラス全体で共有する。
- ⑤ 〈書き直す〉他生徒から指摘された点について再考させることで気づきを促し、書いたものを推敲する活動である。



(作品例)

トピック・センテンス：主張

サポート・センテンス：主張を支える理由や例

I think it is important for us to find out how plants grow in space. This is because, if they grow well in space, we will be able to grow our food there. For example, we could grow carrots or oranges in space. The growth of plans should be the key for us to move out into space. Therefore, I hope that the study on the growth of plants will be made in ISS.

結論

注：□ はつなぎことば、下線部は本単元で学習する文法事項を活用した文を表す。